

5 訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり

【現状と課題】

- ・ 港区は、交通の利便性が高く、豊かな歴史に育まれた多彩な文化・観光資源に恵まれています。また、住民どうしのつながりも強く、地域活動が活発で豊かな地域コミュニティが形成されています。これらの「港区の魅力」を積極的に発信することで、居住人口を増やし、区内における消費行動を促し、まちの活性化を図る必要があります。
- ・ 港区は、卸売・小売業の事業所や飲食店が多く、比較的商業が盛んなまちですが、その事業所数や販売額は年々減少しています。また以前は、準工業地域にもものづくり企業が多く立地していましたが、近年、マンションや住宅建設が進む中、住工混在地域が増え操業環境の変化が見られます。
- ・ 区内では地域や企業等と連携したにぎわいイベントや地域資源を活かした商品づくりなど、地域や事業者が主体となって個性あるさまざまな取組が行われています。
- ・ 港区の魅力ある地域資源を広く周知、活用しながら、地域、商店、企業等の様々な主体が連携協働する機会の提供を行い、ビジネスチャンスにつなげることで、地域の活性化を図る必要があります。
- ・ 築港地区は、海遊館などの大規模な集客施設のほか、歴史・文化などの観光資源が豊富に存在し、年間200万人以上が訪れますが、まちのにぎわいや活性化につながっていません。今後、豊富な観光資源を活かした観光施策の取組に連携して、まちづくりの視点から地域のにぎわいの創出や地域の活性化をめざす必要があります。
- ・ 区内には、市岡商業高校跡地、弁天埠頭、JR臨港（貨物）線跡地など、まちづくりに活用できる資源、資産があります。今後のまちづくりの方向性を踏まえて、これらの資源・資産の活用策等について検討し具体化していく必要があります。

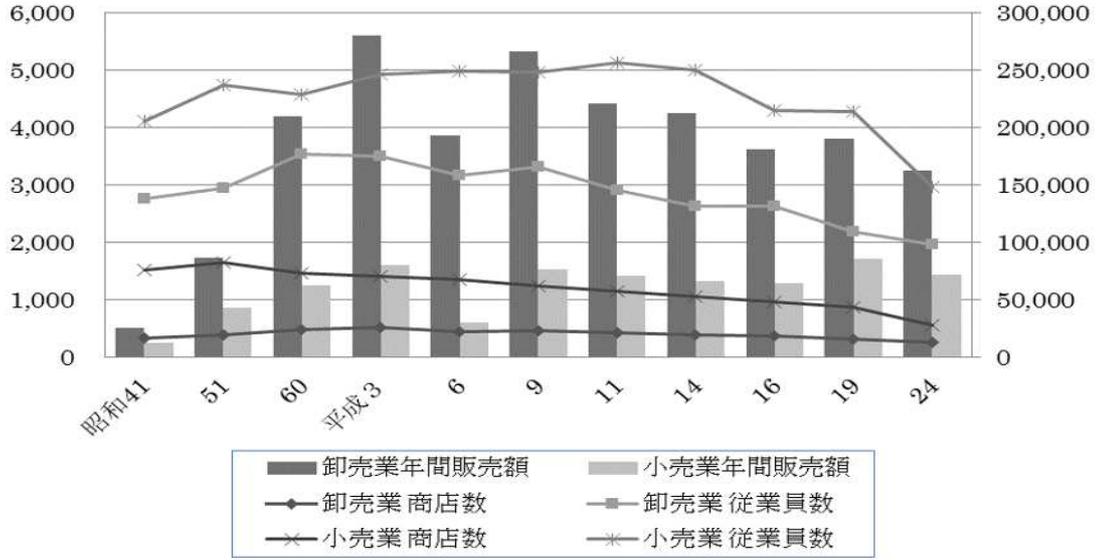


天保山岸壁に着岸する外国客船

箇所・人

商業活動の推移

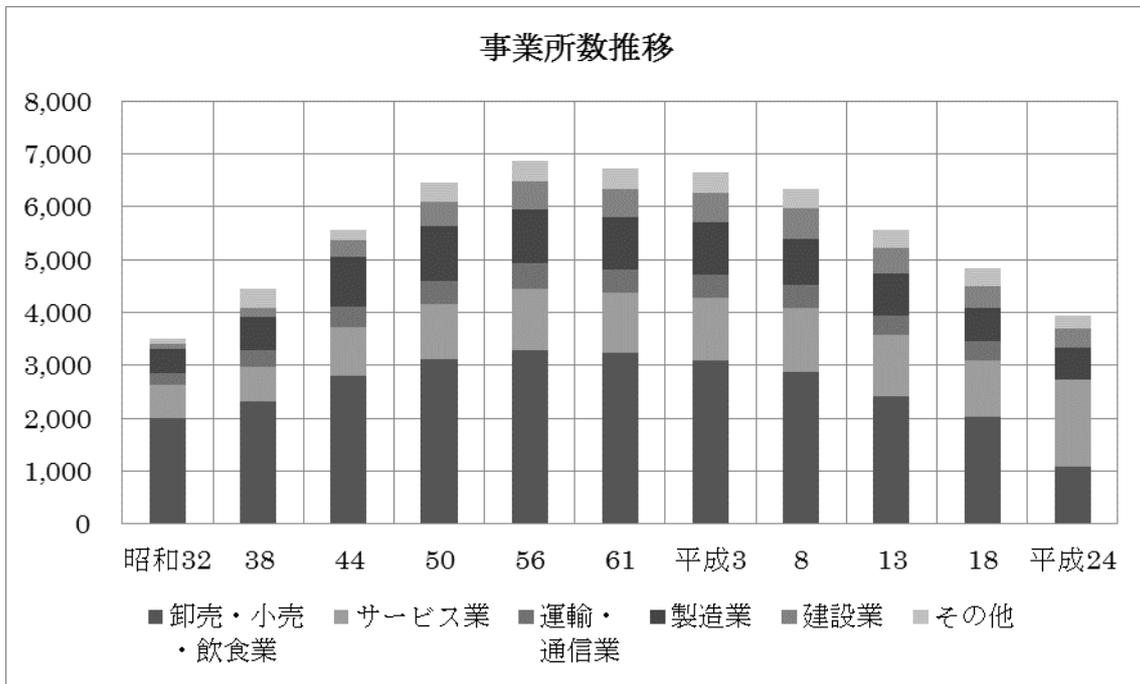
百万円



資料：経済産業省 平成19年までは「商業統計」、平成24年は「経済センサ

資料：経済産業省 平成19年までは「商業統計」、平成24年は「経済センサス」

事業所数推移



資料：平成18年以前は「事業所統計調査」、平成24年は「経済センサス」

【主な施策】

(1) 地域資源を活かしたまちの活性化

商工業者へのビジネス機会の提供

- ・ 企業や商店などの事業者に対してビジネス支援情報を提供するとともに、事業者同士の出会いの場の提供やマッチングをサポートすることにより、ビジネス機会の創出につながる支援を行います。

② 地域や事業者等と連携した商店街等による取組の支援

- ・ 区役所が持つネットワークや情報発信力を活用して、地域や区内外の事業者等と連携し、港区の魅力ある資源を活かした商店街等による取組を支援します。



繁栄ワイワイ市場（繁栄商店街）

(2) まちの魅力の発信

港区の魅力発掘・創出・発信

- ・ 特色やオンリーワンの技術を持つ企業や商店、活発な地域活動の紹介など区内の魅力ある「ヒト・モノ・コト」を紹介し、まち魅力の発信を強化します。
- ・ 港区の地域資源をモチーフにしたオリジナルな商品やイベントなど「みなトクモン」を積極的に広報・周知することにより、港区の魅力を広く発信するとともに、区民のわがまちへの誇りと愛着の醸成をめざします。

港区に住む魅力の発信

- ・ 豊かな歴史・文化資産や発掘・創出した「港区の魅力」など、港区に住む魅力を、広報紙・ホームページ・報道発表などを活用して積極的に発信します。

成果目標

	平成27年度 (現状値)	平成31年度
商店街等が連携してにぎわいイベントや個性ある取組みを行うことでまちの活性化につながっていると感じる区民の割合。		60 %以上

(3) 築港エリアのにぎわいづくり

観光施策と連携した活気あふれるまちづくりの推進

- ・ クルーズ客船の母港化など集客観光拠点の形成に向けた取組に連携して、まちづくりの視点から築港エリアのにぎわいの創出や活性化をめざします。
- ・ 地域ベースの主体的なイベントや魅力発信の取組などが、自主財源を確保しながら自立的に継続して行えるよう支援します。

- ・ 赤レンガ倉庫前広場や中央突堤周辺の臨港緑地、天保山公園の活用等により、集客力や回遊性を高め、エリア全体の活性化をめざします。
- ・ 観光情報とあわせて、イベントも含めたまち魅力の情報をきめ細かく積極的に発信します。
- ・ 居住、観光、港湾物流という機能が共存するエリアの特性を踏まえた調査・検討を行い、観光施策や港湾計画・都市計画等を関連させて、民間活力の積極的な活用などによる総合的なまちづくり計画を平成29年度末までに策定します。



ダイヤモンドポイント

成果目標

	平成26年度 (現状値)	平成31年度
地下鉄大阪港駅の降車人員 (1日あたり)	9,452人	9,700人 以上

(4) まちづくりに向けた行政資産等の活用

遊休地や資産の活用

- ・ これからのまちづくりの方向性を踏まえ、市岡商業高校跡地、弁天埠頭、JR臨港（貨物）線跡地など、区内の遊休地や資産の活用について、関係局と連携して活用策等の検討を進めます。

成果目標

	平成27年度 (現状値)	平成31年度
各々の資源・資産の具体的な活用策について「区民の意見が反映されている」と答えた区民の割合	23.8%	60%以上